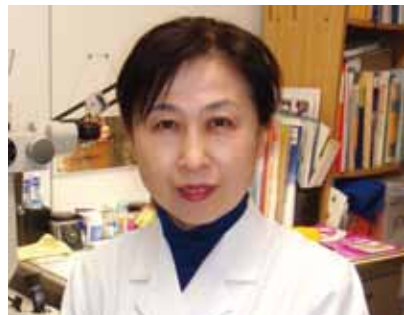


連携医院のご紹介

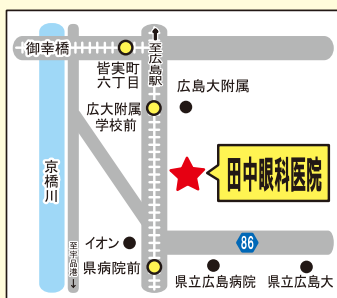
今回は、「話しやすい環境をつくる」ことを大切にしておられます、田中眼科 田中恵子院長先生です。



田中院長

田中眼科医院

〒734-0005
広島市南区翠1丁目3-15
電話/082-255-6622
院長/田中 恵子
診療科/眼科



○いつ頃開業されましたか。

先代の父が昭和35年頃に開業いたしました。周りの方の協力で現在まで診療を続けることができています。

○毎日の診療で大切にされていることは何ですか。

総合病院にはない、診療所独自のカラーを持ってほしいですね。患者さんには、いろいろなストレスを持っている人がいますから、話しやすい環境をつくることを大切にしています。私も患者さんのおかげで成長させていただいています。

また、目の不自由な方が多いので、バリアフリーを取り入れ手すりを設置しています。入り口をスロープにして、車椅子の患者さんにも安心して来院していただけるよう配慮しています。

○開業医としてのおもしろさはどんなところですか。

「家族」を診ることができるところですかね。おじいちゃん、お父さん、お孫さん、と3世代にわたって受診してくださるご家族もいます。小学生のころ通院されていた方が大人になって来院してくださって「僕は子供

の頃、先生に泥あそびをした手で目をこすってよく叱られていたんですよ」ってお話してくださる方もいます。

○県病院について、ひとことお願いします。

本当に頼りにしています。うちの患者さんを紹介させていただくのは99%県病院です。ドクターももちろんですが、スタッフの方も良いですよ。チームワーク、対応、すばらしいと思います。これからも、どうぞよろしくお願ひいたします。



田中眼科外観

【取材後記】

笑顔の素敵な田中先生。おだやかな雰囲気、取材に行かせていただいた私たちがお話しすぎたまい、まさに「聞き上手」な田中先生。先生のお人柄の良さが患者さんの安心できる場をつくっているのだと感じた取材でした。

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページに掲載しています。
県立広島病院 で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

治験 新しい薬を誕生させるために



当院の治験スタッフ



あなたの善意で
今後あなたと同じ病気の
治療薬が誕生する
可能性があります

薬の説明をしています



治験支援室
胡田 正彦

新しい薬がどのように作られるかご存知ですか？

まず最初は「基礎研究」（薬になりそうな物質を自然界の植物、動物、微生物などから探し出したり、科学的に合成する）により『くすりのもと』を作りだします。その次に、「非臨床試験」（動物実験などで安全性と有効性を確かめる）を行います。ここで、病気に対して効果が期待でき、重い副作用がないことが確認できれば、次に実際に「人」に使用して実際の効果や安全性を確かめる試験を行います。この「人」を対象とした試験を『臨床試験』といいます。このうち、国から薬や治療法として承認を受けるために行う試験を『治験』といいます。

日本で承認されるまでの空白期間のことです。この問題を解消するには、国内での『治験』を速やかに進行させる必要があります。

治験において最も優先されるのは、協力してくださる方々の安全と人権を守ることです。したがって、厚生労働省は、治験を実施するときに守らなければならないルールを定めています。このルールの中では、個人のプライバシーを保護することや協力してくださる方々の安全を確保するための製薬企業や医療機関での体制、治験の進め方、監督の方法などが、厳格に規定されています。

治験に参加していただいた場合のメリットは、新しい治療を受けられることです。また、ご協力いただくことで、今後同じ病気の方の治療に役立てることが出来ます。

安全性や人権保護は最大限に尊重され秘密は守ります

当院で行う『治験』は効果と安全性を最終的に確認するものです。すでに使われている薬との比較や、長期間使用した時の効果や安全性についても確認します。最近よく言われる問題に「ドラッグラグ」というものがあります。これは、海外で発売されている薬が

当院ホームページに現在実施中の治験を掲載しています。

当院で実施している治験については、当院のホームページに掲載しています。疾患ごとに参加できる基準が設けられており、ご希望されても参加できない場合もありますが、是非ホームページをご覧ください。関心がある方は治験支援室までお問い合わせください。

県立広島病院からのお知らせ

がん医療従事者研修会

とき 平成25年3月25日(月)
19:00~20:30

ところ 中央棟2階 講堂

テーマ 子宮頸がんの治療と予防

講師 婦人科 主任部長 内藤 博之
婦人科 部長 熊谷 正俊
放射線治療科 主任部長 和田崎 晃一

対象 医療従事者 及び その関係者

問合せ先 総務課管理係 (担当:藤原)
TEL:082-254-1818 内線 (4273)

乳がん検診メッセージカードを配布します

県立広島病院では、乳がん検診を呼びかけるメッセージカードを入れたポケットティッシュを、来院した男性に配布します。ホワイトデーにあわせ、大切な女性へ受診を勧めるカードとしてご利用下さい。

配布期間は3月11日から14日です。



※詳しくは県立広島病院ホームページへ 県立広島病院 で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

外来診療のご案内

診察受付時間

午前8時30分~午前11時00分
※午後の診察は科によって異なります。

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始(12月29日~1月3日)

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか、2,620円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

※当院では、予約診療を優先して診察しています。
予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなる場合がありますので、ご了承ください。

診療科だより

第24回

生殖医療科は開設5周年を迎えました。生殖医療科

今回は、生殖医療科の原主任部長に直撃インタビューです!!

■はじめに、「生殖医療科」について教えてください。

平成19年9月18日に生殖医療科が開設され、早いもので昨年9月に5周年を迎えました。生殖医療科では、技術的には体外受精・胚移植と生殖外科を車の両輪として不妊と不育の夫婦の診療を行っています。

開設当初は、医師1名、看護師4名と胚培養士3名の体制で診療を開始しましたが、現在、医師2名、看護師5名と胚培養士4名のスタッフで診療を行っています。設備としては、空気清浄度クラス100を実現したクリーンルームなど全国的にも最先端の機器システムを備えています。また、患者さんの気持ちが少しでもやすらぐように患者待合室は“みどり”を基調としたホスピタルアートで彩り、患者さんの気持ちにも心を配っています。

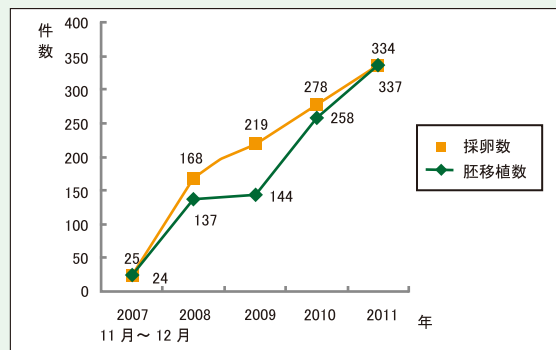
■生殖医療科では、どのような診療が、どんなスタッフによって行われていますか?

スタッフの一致協力した努力により、生殖医療科の診療も少しずつ患者さんに受け入れられてきたと感じています。体外受精・胚移植は平成19年11月から始めましたが、採卵数と胚移植数は毎年増え続け、一昨年は採卵数334、胚移植数337といずれも300件を超えることができ【図参照】、昨年もさらにその数を上回ることが予想されます。生殖外科手術も毎週2~3件は行っており、開設以来年間100件から110件の手術を行っています。昨年からは外来での子宮鏡下手術も開始し、手術までの待ち期間をでき



生殖医療科主任部長 原 鐵晃

るだけ短くできるように努めています。学会発表にも力を入れており、国内学会のみではなく国外での学会発表も積極的に行ってきました。



【図】 県立広島病院における採卵数、胚移植数の年次推移

■最後に、生殖医療科としてここにかけていることを教えてください。

不妊症・不育症の患者さんへの診療のみでなく、新しい分野としてがん患者さんの妊孕性(妊娠できること)温存にも力を注いでいくつもりです。がんに対する集学的治療の進歩によって、多くの若年患者さんが「がん」という病気を乗り越えることができるようになってきました。しかし、若年がん患者さんに対するがん医療(特に化学療法、放射線療法)は、ときに卵巣機能不全、早発閉経、造精子能の障害等により不可逆的な不妊症を引き起こしてしまいます。これからは生殖医療科で蓄積してきた精子凍結、卵子凍結、胚凍結、卵巣凍結などの技術を応用することにより、これら患者さんの妊孕性を可能な限り温存できればと考えています。これからも、元気な赤ちゃんがひとりでも多く誕生できるよう、スタッフ一同気持ちをひとつにして頑張っていきます。

外科医の独り言 no.18

— 医者も患者 —

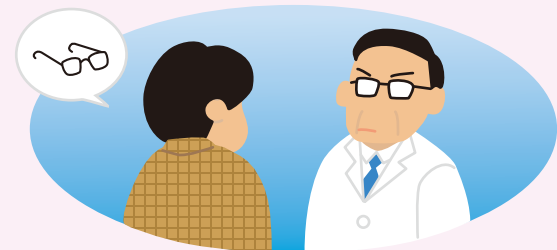
5,6年前の話です。元々近眼でメガネをかけていますが、やはり寄る歳には逆らえず老眼が少しずつ進んで近くのもの見えにくくなっていました。もちろん手術の時には、45歳くらいから2.5倍に拡大して見えるルーペを付けてやっているので問題ありません。普段、文字が見えにくくなったので遠近両用のメガネを作ろうと思い立ったのです。ご承知のように新たにメガネを作るには眼科の処方箋が必要です。ということで近所の眼科に行った時の話です。

待合室は患者さんで一杯、初診なので当然、1,2時間は待つことを覚悟していました。するとすぐに名前を呼ばれて、えらい早いなあ?別に早く診てくれと言った訳じゃなし、そうかあ、メガネを作るだけなので早いんだ、と納得して診察室に入ろうとしたら、看護師さんから「検査もしていないのに診察はできないでしょ、こっちですよ」と検査室に連れていかれました。まあ、そりゃそうだ、視力も測らずにメガネは作れんわい、と納得して検査を受けました。そして視力検査、そのあとなぜか眼圧の測定、そのあと何か忘れましたがいくつかの検査、待てよ、俺はメガネを作りに来ただけなのこと思いながら「あの一すみません、メガネを作りに来ただけなんですけど」と思わず口走ってしまいました。しまった、と思ったのもつかの間、看護師さんがむっとして「院長先生から検査のオーダーがでてるんですから、文句は院長に言ってください」と。いらんこと言わなきゃ良かったと後悔しつつ待合室に戻りました。それから居眠りをしながら待つこと1時間、診察室に呼ばれました。そこでまた眼底の検査、そしていよいよ検査結果の説明です。「眼圧

が少し高いですねえ、眼圧ってわかる?」と院長、知ってるわいと思いつつ、ついつい「いえ、よくわかりません」。「まあ詳しい説明をしてもわからんだろうけど眼圧が高くなりすぎたら緑内障になるよ、まあまだ大丈夫だけど」。「はあ、そうですか」と私。「それと血糖高くない?糖尿病、知ってる?」。医者じゃなくても知ってるわい、糖尿病くらいと思いつつ「聞いたことあります」と。それから丁寧に糖尿病の説明、その目に与える影響について説明して頂きました。「わかった?今の説明で」と院長。「良くわかりました」そのあとでお礼もそこそこに、また言わなきゃいいのに「あの一すみません、メガネを作りに来ただけなんですけど」。これには相当カチンと来たでしょうね、院長先生も、でもそこはさすが、切れることなく無事メガネの処方箋を書いていただきました。実はこの頃私はかなりの肥満で、血糖も高くこれをきっかけに7~8kg減量しました。おかげさまで体も楽になりました。

確かに親切で色々説明してもらって、最後に「メガネを作りに来ただけなんですけど」はないですよね、本当に失礼な患者でしたと反省しています。

そろそろまた老眼がひどくなってきたのでまた行きます。今度こそ先生の気分を害さない良い患者になりますのでよろしくお願いします。



副院長(消化器・乳腺・移植外科主任部長) 板本敏行(いたもと としゆき)

病棟編

看護部だより

西4病棟(産科)

ではハイリスク妊産婦のケアだけでなく、すべての妊産婦及び新生児を対象とした、各種マタニティーサービスを提供しています。平成22年10月からは助産師の特殊性を生かした「助産外来」がスタートし、好評を得ています。スタッフ総勢35名の大所帯ですが、チームワーク良く、笑顔を大切にがんばっています!

県立広島病院に、総合周産期母子医療センターが開設されて14年目になります。さらに平成21年3月からは、妊娠、分娩、産褥、新生児、小児、思春期、という成人にいたるライフステージで、安心・安全で継続したチーム医療を提供する「成育医療センター」の運営をしています。西4病棟



チームワーク抜群です!!

看護研究発表会を開催しました。



発表の様子



各パネルで説明しています。

2月16日(土)に看護研究発表会を、県立広島病院と安芸津病院合同で開催しました。看護部では、普段から様々な看護研究を行っています。その成果を、このような研究発表会という形で年1回発表しています。外からは、なかなか見えにくいですが、今後もこのような地道な取り組みを続け、更なる医療の質の向上に努めます。



スライド説明後の質疑応答です。

普段から様々な看護研究を行っています。